

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373400922		
法人名	医療法人 敬和会 近藤病院		
事業所名	ゆうあいグループホーム		
所在地	岡山県真庭市勝山1080		
自己評価作成日	平成23年6月10	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成23年7月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設の近藤病院と共に地域に開かれ、また地域に求められる施設運営に努めている。在宅支援にも参加しデイサービス事業では月曜日から土曜日まで毎日3人の利用がある。運営推進会議においても地域の力強い協力を頂いている。特に駐在所の警察官にはホームの安全のため日々のパトロールしたり訪問もある。年末の清掃の協力を頂いたり行事にも参加されホームの理解を深めて頂いている。敷地内には法人職員の子供たちが通う保育園があり日常的に子供たちと触れ合うことができるのも当ホームのよいところである。ホームにはいつも外部からの出入りがあり家庭的な雰囲気が漂っている。入居者への対応においては開設以来月1度の帰宅支援は継続している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者9人に毎日デイサービスに通う3人が加わって、月～土曜日を皆で楽しく過ごしている。そこにホームの隣りにある職員用保育園の園児が訪問してくれ、利用者の心を癒してくれるのもたまらない。家族もよく訪ねてくれ、中には大阪から息子さんが一週間毎にホームの母親を訪ねて一緒に生活する人も居る。前から2～3泊で居室に本人と共に泊まったり、又、家族と共に帰宅や外泊をして一緒に生活しているという事例は多い。ボランティアの人も来て、炊事や農園を担当し、又、ホームの掃除も手伝ってくれる。地域の人達もホームに来たり、行事に参加して地域密着型と言う勝山の地域柄も活かして楽しい生活が保たれている。開設時から担当してきた管理者を始め職員全員が食事を始めとして生きる力を大切にして、利用者と共に笑顔一杯に元気に仕事をしていて、当初から変わらない環境を維持しているのもこのホームの特長である。これらを総合して、大家族の居場所を構築している岡山県の代表的なホームと言える。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心かつ寄り添うケアを目指す」を念頭に掲げ日々の実践の為、毎朝唱和している。また心に寄り添った実践に努めている。	毎朝、基本理念・方針・接遇について唱和し、共有と実践に努め、管理者は口頭で日々気付いた事を職員に伝え、理念に対する意識の高揚を図っている。	理念の内容を具体的に理解して、実践できたことを評価する為に、各字句や述語にも解説をして、全職員がクレジットとして共有出来るようにしたら良いと思う。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には多数の地域の方の参加があり、また地域事業にも入居者と共に参加している。ボランティアの方の出入りもかなりある。	近年では、地区の文化祭で利用者が歌を披露し、交流を深めた。調理、清掃、畑のボランティアは定着し、ホームの菜園にはいつとはなくボランティアが出入りしている。ボランティアを通し、地域住民の交流が深まっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトへの登録・活動の他地域に出向き講師として参加している。民生委員、愛育委員、サロンなどに出向いている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ボランティアから駐在さんまで幅広いメンバーにご参加頂き、寡いを重ねるごとに内容の深い寡いが開催でき、日々の勉強をさせてもらっている。よい意見交換ができています。	開催は家族会の行事を兼ねた食事会形式で行い、出席率や意見交換の活性を図っている。地元の運動会や文化祭への参加、火災訓練等、運営推進会議を活かす取組が行われている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加及び市内のグループホームにて連絡協議会を立ち上げ、3ヶ月に1回連絡会議を行っている。	真庭市主催のキャラバンメイト活動やセミナー等で相互の連携が図られている。管理者は課題が発生した時や困難事例の相談もスムーズに運び、良い協力関係が築けている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成すると共に定期的に研修を行っており玄関などの施錠は行っていない。(日中)	身体拘束マニュアルに基づいた研修を受け、全職員は正しく理解している。職員一人ひとりが利用者の心に寄り添い安定しているので、現状は拘束には縁のない落ち着いた暮らしができています。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議において事例を通し、学習し職員の意識統一を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については法人の研修に参加している。また入居者の家族への相談にも応じ病院MSWの参加にて手続きの相談も行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明に努め、改定時等は、分かりやすく表記し、説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年4回家族会を開催している。また、家族間で互助会を立ち上げられ、ホームへの希望等も届いている。何でも話し合える関係作りに努めている。	毎月、家族連絡票(写真、生活、健康、連絡事項を記入)を送付し、ホームの暮らしを理解した上で意見が出やすく配慮している。家族会や運営推進委員会においても、多くの意見が出されている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議を開催し、意見交換の場としている。	職員会議以外にも、年一回法人主催の業務改善発表会において、運営に関することも併せて発言をしている。失便対策では職員の意見を結集し、利用者と共に手作りの用具を考案し、成果を挙げている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与、賞与時に管理者が評価し、昇給・特別手当として支給している。 院内保育を設置し、子育てと仕事の両立支援を行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や資格に応じた外部研修の機会が設けられている。また、法人内でも活発に研修を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームにて連絡協議会を立ち上げ、3ヶ月に1回活発な意見交換の場を開催している。他のグループホームに出向き研修を行いサービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に十分な情報収集をし、アセスメントを基に支援を行い信頼関係が構築できるように努めている。また関わりの中で要望や不安などが話せる場面を作っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分な情報収集を行い、要望や不安な事などを随時確認しておりケアプランに反映している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	随時本人や家族の意向を聞きながら希望に沿った支援に努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者は人生の先輩であり日々学ぶ事も多く、尊敬した態度で接し、共同の意識で関わっている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月家族へ生活の様子が解かる写真と共に文面にて様子や連絡事項の報告をしている。また遠方からの毎月の帰省や宿泊にて積極的な協力がある。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月の帰宅支援を行っており馴染みの方と逢っている。本人、家族共の満足につながっている。	居室に個人電話設置の要望に応え、管理者が上層部との熱意ある交渉で架設が実現し、娘さんとの良好な絆が保たれている事例がある。帰宅支援事業も軌道に乗り、他施設の模範ともなるところである。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良い関係が構築できている入居者もあるがそうでない入居者もいる。孤独やトラブルにならないよう環境設定に努めている。それぞれ落ち着いた場所を設定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの相談を受けている。その際は時間を設け相談を行っている。また病院、老健などへ面会にいらっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族への聞き取りや生活暦を把握して、個々に合わせた生活支援に努めている。	入所までの生活歴の情報収集に加え、ホームで暮らす中での気付きの部分で、職員が均一のケアが行えるよう質問して反応を見る等、コミュニケーション能力の向上に努めている。	職員が入所者に一日10分、じっくりと対話し、気付きを養うコミュニケーション能力の向上を図る工夫を更に強化して欲しい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族や居宅のケアマネ等に聞き取りを行い、情報収集に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者個々に担当職員がおり、計画作成担当者と共に随時、状態を把握し、その時々々に合わせた対応を行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で討議し、本人や家族の希望や思いを随時確認し、反映できる計画の作成に努めている。	担当制を敷き、申し送り伝達ノート、担当シート、お世話プラン表、モニタリング表等々、多くの記録物から視点をまとめ介護計画に反映させている。6ヶ月毎の見直しに家族が加わる。	介護は、アセスメントや介護計画の実践状況を確認する為、各仕事の関連付けができるようなトータルマネジメントを考えてみて欲しい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の中での言葉や様子が見えるような記録に努めている。職員間の情報共有のため伝達ノートを作成している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅支援や必要時の受診付き添い外食など柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を十分に活用しているとはいえない。今後地域資源を活用する為に情報収集に努める。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接の母体病院にて定期受診や往診また医療連携体制が確立できている。	入所と同時に母体病院に切り替えている。専門医への紹介は積極的に行い、脳外科医による認知症進行などの見極めも確立している。入所者は医療面でも安心して暮らせている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制にて定期的また必要時には報告や相談ができています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	隣接の母体病院にて協力体制が確保できている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的に家族に終末期の確認を行っている。またホームでの終末期を希望された場合も対応している。現在ひとりの看取りケアを行っている。	母体医療法人が中心となり、関係機関や職員の理解を得て、終末期ケアの体制は確立している。現在2名の看取りを行っており、医療者による苦痛の除去と、人生の終焉をこのホームで安らかに見送りたいと支援する職員は度々訪室し、見守りを行っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修に参加しているが研修のみでは不十分であり職員会などで動きの確認マニュアル等の読み合わせなどを行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成とプランの中にも入れている。毎年二回の訓練と毎月マニュアルの見直し、自主訓練等を行っている。	消防団員に、認知症の理解、ホーム内の施設個所や消火栓の確認、マニュアルの見直し等実地訓練を行い、入所者と職員による避難訓練は毎月実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを的確に理解し、日々の声かけ、対応に努めている。	利用者同士が良い面を持ち寄っている集団であり、特別に構えることなく、自然体で尊厳とプライバシーは守られている。利用者同士個々の生活アルバム帳は「宝物」として保管され、個々人が大切にされている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活においてより多くの表情・言葉を引き出せるような環境の設定・声かけに努めている。毎週行っている献立会議では希望メニューを聞きだせるよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭的な環境を大切に考え、入居者中心に生活が送れるよう援助している。一人ひとりのペースに合わせた関わりを心掛けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪ができる職員がおり、その人にあった整容を心掛けている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べる事 = 生きる事ということを大切に考えている。毎週の献立会議で入居者の希望を聞いたり、食事の様子を観察している。	誕生日会や来客時等は特別食が用意され、皆の楽しみでもある。個々の好みには個人対応で外食する事もある。職員と一緒に食卓を囲み、笑い声が絶えず、自然に洗い物や食卓拭きの手伝いがある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりやその時に応じた量の提供を行い、必要量の摂取に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた口腔ケアの介助や声かけを行っている。必要に応じて歯科受診もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムが把握できるようにチェック表を作成し、自尊心に配慮した誘導を行い失禁の軽減に努めている。実際に失禁が軽減した入居者もいる。	職員には特に排泄自立の重要性を説明し、個々の仕草、リズム、排泄時の様子を詳細に記録し、記録を基に適確なトイレ誘導を行って、失禁が軽減した事例もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を心掛けている。必要に応じて下剤を服用している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	特に希望もないため時間等も定着してしまっているが希望時や必要時には応じている。	入所者と通所利用者との時間帯を調整しながら隔日実施している。入浴剤を活用したり、マンツーマンの一時を大切に捉え、リビンググループでは出来ない課題もアプローチしながら楽しんでもらっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じて午睡の時間を設けている。夜間は職員が添い寝する等と安眠確保に努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の一覧表を作成し、確認・把握している。また医療連携体制にて随時、看護師に相談や報告を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族からの情報収集を基に個々に得意な事や楽しみが生かせるよう援助している。希望の嗜好品も提供している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩等その日の状態に応じ職員と一緒に出かけている。また、買い物やその他の外出等は計画的に行っているが、ADLの低下に伴い少なくなっている。年1回は温泉施設に出向いている。	環境に恵まれ、買物、ウォーキング等日常的に取り組んでいるが、利用者の機能低下という現実がある。外出ボランティアの協力を得たり、機能訓練により、希望に沿った外出が維持できる支援が課題となっている。	簡単に取り組める筋力低下予防体操を皆でゲーム感覚で取り組み、少しでも多くの入所者が希望の外出を維持できる支援を考えてみてはどうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>日常的にはホームで一括管理している。入居者の希望や力に応じて財布を渡して買い物ができるように努めている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望者には居室に電話を設置しており、家族からの電話も頻回にある。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者の言葉や仕草に注意し、環境設定に努めている。季節の花や貼り絵など貼り季節感を提供している。</p>	<p>天井からの自然採光、リビングルーム壁面は緩やかなカーブが心地良く、保育園児と触れ合いタイムのソファコーナーは慈愛に満ちた雰囲気にも包まれ、居心地満点の共有空間である。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>入居者の関係を把握し、落ち着いて過ごせる環境設定・配慮を行っている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅での使い慣れた家具を持参して頂けるよう家具類は設置していない。</p>	<p>トイレ、洗面所が備え付けられ、職員の誘導で、落ち着いて整容、排泄できるのが良い。観葉植物、電話、家族写真等、家族と利用者の絆に配慮して部屋作りができています。清潔で温かみを感じた。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>バリアフリーな環境下であり、また、個々に応じた配慮を行っている。居室に名前を大きく提示したり戸口にぬいぐるみを掛けたりし居室がわかるよう配慮している。また、下駄箱には名前を貼り付けている。</p>		